日本のプロコーチ宣言第1号　榎本日出夫（日立戸塚コーチ）

私のバスケット狂書 その（2）

マイクロ・バスにとりつかれ

ふと目に入った"40年式・40万円"

負担を感じた試合通い

ハイライトブルーに塗った車体、「バスケットボール・イズ・マイライフ・エノモト・アンド・ヒズ・ファミリーズ」と大きくローマ字で書いた24人のりのマイクロバスが自分の手もとへとどいた時の喜び、それは、それまで二カ月間にもおよぶ長い陸運局通いや、資金面での苦しさが、やっと むくわれたという感激の一瞬でもありました。

昭和四十五年の三月、ようやくチームらしくなった日立戸塚も、強いチームが存在するところから、ちょっと離れた土地にあるため、なかなか良い練習試合相手や、良いプレイに接しにくいことや、もっとその努力をしないかぎり、やはりこれ以上の力をつけることはできないのではないかと考えはじめました。

たとえば、練習試合をするにも強いチームは都心や埼玉などにあるため、そこまでいつも行かなくてはならず、片道で三時間から四三時間は軽くかかってしまうようなわけで、練習試合に出かけると戸塚の寮に帰りつくのはいつも午前一時をすぎているというありさまでした。

これでは、次の日の仕事にも差しつかえるし、選手にはなるべくそういう意味の負担はかけさせたくないという私の考えかたからすれば、なんとしてもたまらない気持になってくるのが現状でした。

まだまだ弱いチームだったため、会社の方も練習時間や、その他のことも余り融通がきかず、かといってこのままではこれ以上の力をつけられないのではないかと悩むようになったある日、偶然いつも利用するガソリンスタンドの隣りの中古車屋に「40年式・40万円」とかいたマイクロバスが売りに出されているのが目にとまりました。

さあ、そうなると、いてもたってもいられなくなり、一度は練習のためにコートへ帰ったものの、気もそぞろで練習もそこそこに中古車屋へとってかえし良く見せてもらおうと考えました。

しかし、なぜかそこにある古のマイクロバスは影も形もないではありませんか。

やっぱりダメかとがっかりして、その日は係の人になすねる冷静さもなく、家へすごすごと帰りつきました。

夕飯を食べ、風呂へ入っている間も「40万円をどうやって作ろうか」。しかし安いからもう売れてしまったのかなァー」とか「バスを購入すれば、こんなに便利なのになァー」などと考えると、"どうにもいても立ってもいられなくなり、家を飛び出しました。

この辺は中古車屋が多いからけても暮れてもマイクロバスがあったならーと思うことしきりでした。

たまたま、冷静になって考えてみると、車を二台持つことなど維持費や税金の面でも無理は明らかなのに、なぜこんなことを考えるのだろうかーなどと思いながら、なおもその便利さや選手たちのことを思うと、それらを打ち消し、ただただすぐにバスを買いたいという欲望のみがさき走り、どうにもならないいらだたしさに明け暮れていました。

そんな気持を忘れさせるかのように、次第に春の関東リーグだとか、スカウトのための出張とかが重なり、車を捜して歩く暇もなくなりました。

自分でも、やはり個人でマイクロバスを持つことは無理だし会社に頼んで新車を買ってもらえば良いのではないかなどと半分あきらめ、自分にいい聞かせながら忘れようと努力したものでした。

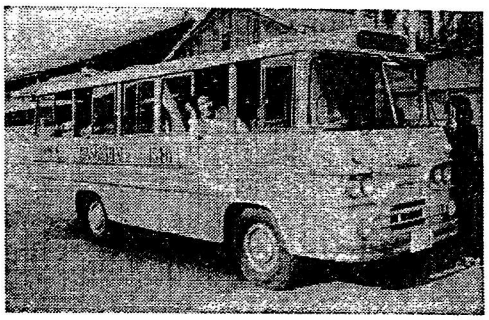
春のリーグ戦も終り、五大部市大会も終って、選手たちに夏休みをとらせ、ホッとひと息ついたのが七月の十日。

なんとなく車にのって洗車でもしようといつものガソリンスタンドにでかけ、なにげなく隣りの中古車屋をみると、あったのです。

買うことを断念しかけた、あのマイクロバスが……。

【続く】

榎本日出夫氏。日本における"プロコーチ宣言第一号"として注目された日立戸塚コーチ。無名選手の集団だった同チームを鍛えあげ、四十六年に日本リーグ入り。翌年のリーグ戦で"無敵"ユニチカ山崎を破り、昨年の日本リーグ、今年のオールジャパンでそれぞれ初優勝した。



欲しくて欲しくてたまらなかったマイクロバスが……

手にした時思わずバンザイ

榎本日出夫

武蔵中学（東京）、武蔵高校（同）、武蔵大学（同）をそれぞれ卒業。現在、女子実業団チーム日立戸塚コーチ、昭和十六年七月、七日生まれ。〈現住所〉横浜市戸塚区舞岡町一三二一ロー六。

BASKET BALL IS MY LIFE